

第六回コラボ実践コンテスト 小学校・中学校部門 アピールシート

平成 29年1月5日

所属名 : 東京都北区立飛鳥中学校

実践学年組: 2年 C組

氏名: 浅賀 仁

教科	道徳科
実践期間	H28年4月1日 ~ 継続中
実践タイトル (35文字以内) コラボノートを用いた生徒の主体的・協働的な学習態度を培う道徳授業の開発	
実践の目的 ICT機器の有効活用で生徒の互いの考えを一斉共有、それを用いた振り返りを行わせ、生徒の主体的・協働的な学習態度を培う。また、多くの考えを交流し、考察する場を設けることも目的としている。	
実践のポイント・工夫 共有した情報を有効活用するのかに焦点を当てて、コラボノートの活用方法を考察した。道徳の特性上、「私の考えはこのようなものですよ。あなたの考えはどのようなものですか?」といった生徒間でのやり取りや、「あなたの考えは素晴らしい」、「この部分に共感します」などの肯定的な評価活動を行うことで、生徒の自己肯定感や相互理解ができるように工夫した。	
実践内容 (簡単に) 道徳科の授業の中で、主に2回、コラボノートの使用機会を設定した。1回目は「考えよう」、2回目は「過去の自分にプラスワン」。 ①「考えよう」については、付箋の色で全員の考えが視覚的に分かるように、枠に区切られたシートに賛成(青)・反対(赤)、やプラス(青)・マイナス(赤)のように色を設定し、その付箋に考えを書かせるような発問の設定をした。もちろん、白黒をつけることを目的とせず、どちらの考えも理解し合うことを大前提とする。その上で、なぜ賛成なのか、というところを語り合わせ、考えることに重きを置いている。 ②「過去の自分にプラスワン」については、1枚のシートにクラス全員分の枠(枠の1つ1つには出席番号が振られていて、形は正方形で真ん中には縦線が入っている)を用意しておき、自分の枠の左側の部分に自分の考えや思いを書いた付箋を貼る。また、ランダムに選ばれた仲間の枠の右側の部分に、仲間の考えに対する自分の考えやコメントを貼らせ、相互理解や他己評価活動を行った。	

(コラボノート)を使用してよかった点を教えてください。
情報共有がスピーディーに行うことができ、発言の少ない生徒を含め、全員の考えを知ることができる点。また、お互いの考えにコメントをすることで、相互理解や自己肯定感の向上につながった点。また、ICT機器を使うという行為そのものも、今の生徒にとっては学習意欲の喚起につながる1つの手段となっている。